

第2 農業経営の規模、生産方式、経営管理の方法、農業従事の態様等に関する営農の類型ごとの効率的かつ安定的な農業経営の指標

1 農業経営モデル類型

第1に示す目標を可能とするため効率的かつ安定的な農業経営の指標として、現に伯耆町及び周辺市町村で展開している優良事例を踏まえつつ、伯耆町における主要な営農類型について次のとおり示すものとする。

〈個別経営体：12類型〉

番号	経営類型	作 目	経営面積 (ha)	適用地域
1	水稲・露地野菜Ⅰ	水稲、白ねぎ	3.6	全 域
2	水稲・露地野菜Ⅱ	水稲、ブロッコリー	4.5	〃
3	水稲・露地野菜Ⅲ	水稲、はくさい、スイカ	2.7	〃
4	水稲・花壇苗	水稲パンジー、ペチュニア、ハボタン、マリーゴールド・サルビア	0.95	〃
5	水稲・果樹	水稲、柿、梨、リンゴ	1.8	〃
6	露地野菜Ⅳ	キャベツ、ブロッコリー	5.6	〃
7	露地・施設野菜	白ねぎ、ほうれんそう	1.1	〃
8	水稲・肉用牛	水稲、飼料作物、和牛繁殖・肥育	7.5	〃
9	露地野菜・肉用牛	白ねぎ、飼料作物、和牛繁殖	4.3	〃
10	肉用牛	飼料作物、和牛繁殖	4.0	〃
11	畑地酪農	飼料作物、乳牛	3.0	〃
12	しいたけ・水稲	しいたけ、水稲	3.0	〃

〈組織経営体：1類型〉

番号	経営類型	作 目	経営面積 (ha)	適用地域
1	水田営農型	水稲・作業受託	18.0	水田地帯

2 農業経営モデル策定の前提

(1) 経営モデル設定の基本的考え方

ア 第1で示した経営体育成のため、それらが目標とすべきモデルとして策定したものである。

イ 経営モデル設定の前提条件として、本町で実際に営まれている代表的な経営事例を踏まえ、本町における他産業従事者の年間労働時間、生涯所得等を考慮し、それらと同等の水準を達成しうる農業経営を基本において策定するものとする。

ウ 従って、現実には、個々で示した類型以外にも地域の実情に即した多様な経営が営まれるものと考えられるが、それぞれの地域において自然的・社会的諸条件を考慮した経営類型を設定していくことが重要である。

目標とする水準	年間労働時間	概ね1,800時間 (主たる従事者の年間労働時間)
	年間農業所得	概ね350万円以上 (主たる従事者1人当たり)

(2) 試算の考え方

経営体を育成するため、生産性の向上、機械施設の効率的利用体系の確立、既に確立した先進技術の導入、物財費の節減等低コスト生産営農体系を念頭において試算した。

(3) 農業経営モデル類型の設定について

ア 農業経営モデル類型は、本町において実際に取り組まれている経営事例を基礎としているが、作物については多様な組合せが考えられる。

イ 認定農業者の経営改善計画の策定にあたっては、本モデルを基本にしながらも、これに拘束されるものではなく、地域や認定農業者の実情に即して組み替えることとする。

(4) 農業経営モデル類型の区分について

個別経営体12類型、組織経営体1類型を設定し、個々の経営モデルの基本的指標については、巻末に参考資料として添付したが、社会情勢の変化等に適応したものとするため、必要に応じて適宜見直すものとする。